



小倉山庄色紙和歌



天智天皇

秋農田之實里保
能毫乃云摩遠阿
蘇我我果羅紋多
半洞容全濡荷

持統天皇

去るくたへ
千たふ

白妙乃

くもちんふふ

あふふく

やま

柿草人ぬ

えいの

山もれ

は
お

おろ

ま

た

尾

よ

の

山邊赤人

田んぼに歩

く

る

石巻の音根

きよはる

猿丸大吏

たぐ山 輝 とき

河 紅葉 時 芳

石 秋 古

鳴 花 水 芳

中納言長持

うしろ 星 花

わさ せ 花 橋 上

あや 花 花

あや 花 花

あや 花 花

安徳仲麿

此山 三の 原

ふきとけり

川 へんれふ
ふき
三筆

高橋法師

高庵 上巻

名

宇治

大和

北

山中

新

人ハ

新
そは

福

小野小町

花のよはうつた
ふれりては
わ、月世うたふ
とせしふり

蛸丸

道坂
農

是や

開

此中

常

新

あゝハ

ね

各議望

いんや人

片

5

わきん

海生

北

けく

初

身

六

儒正遍昭

王津風

乙

く

身

老

青

通路

吹

心

光

湯成院

瓶波松花

測と

あつ
け

ふれと

たつ系

天女の尺

恋そ

積て

河原太夫

ふれと

ふれと

り

ふれと

ふれと

ふれと

光孝天皇

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

中納言行平

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

孝の字

在原東平朝臣

茅速振神代志

石鈴龍田川

唐紅耳水
潜止者

原原敷行朝臣

住乃とれす

りちふなと

久

とるはくや

夢のよきち

葉

花をえ

伊勢

まき
いろ

浪波

まき
いろ

おの

いろ

道孔

あはく
いろ

元良親王

院

いろ

おの

浪波

いろ

あはく
いろ

素性法師

あき 今
秋 今
と

結 月 日 の

はる 月 日 の
あき 月 日 の

又屋康秀

吹

うた

むく

山風

秋の

あき

あき

あき

しん

あ

古

大江千里

月之進けちた

あうろ

富たの身

むろれ秋

十二

富家

遠回

如斜もるに

山

おまのう

神れまた

三條右大臣

名に おけり

逢坂山麓

山あり

人より

斗あり
ゆかり

貞信云

しき

ふれ
き

小飛やま

岩はまき

くろあき

今一ふき乃

中納言通獨

ふり若くはわき傳

なり海に法美

川

伊河もきこつ

あき——あき

六

源宗子朝臣

十二事

重光

松雲

重光

人

山王經石經

名もうはる

草衣

おれや

斜主

凡河内初恒

うろ

あ

うろ

ま

うろ

うろ

うろ

うろ

霜

五

壬生忠岑

有明乃凡

うろ

うろ

物

曉

うろ

貴

坂上是別

サ

わろは嘉

濃

わろは

朝ほろは

△宇治農川

霧

羽代

大まくり

臺道列樹

山川糸風のけ

ふ形わろは

響

たぬれえあは

まふれは

弘友公

かく 久里北

と能 光乃也

濃ち 守之君

累云 農正に

舞 我門心

敬原興凡

ほろろ

甘露

高砂北

松老若のとも

これ

学そす。

最

者に

中

言

紀貫之

不

人

と作

うろ

十

清原深養父

河

夏能衣

衣

月

号

了、宵那

明也

と

文屋朝康

病

夕

風

玉

秋の

そ

は

地

か

ま

人の

折

い

あ

右

わ

志

月

折

お

森下

海軍に在るの
降参る忍びと

あちてれや。

人のほむ

平田

—の

あちてれや

あちて

人に在る

あちて

あちて

壬生忠見

恋

去りし我なは

る大なるこころ

なり

望

れき

おどろくや

う

清原文補

契きき見難

契きき見難

神

神

きき見難

末の松

山

中納言朝忠

わむさくの

及此始乃

と尋れ

芳氏あふ

中納言朝忠

中納言朝忠

逢事乃信て

なくは中く

中納言朝忠

恨み山花

福徳公

名車もいふ人

人とおもひて

祈れり

ふれり

う

身

曾禰好忠

由良門平渡舟人

かち

向後茂志唯ぬ

こゝれ

秋はまた

名

慧慶法師

いふむく

新まれば岸の

はるしきり

人こそね

源重

風

を

吹く

山

お

比

ふれ

れ

あ

大中臣能宜朝臣

三つ起も孝志
 此大く心によふを
 之をひるハきこは
 川女衆哉こそ木
 成趣

藤原義孝

於

君
ウ

如

考

44

フ

たろ

以地

之

九

542

日
月
火
水
木

藤原実方朝臣

しきしきせり

かきや

おのゝ

や

大に衣やハ

伊吹乃山も草

さしえ

藤原道伝朝臣

月如れそふ

あふ

まふ

ら

ねろ羅 時の

しき

か

右近大納道經女

あ

歎たはるひを

ふ

わがよ

あはれはいつに

新

久しき

倭国音女

わがよ此の末

あはれはいつに

そ

あはれはいつに

あはれはいつに

おれとねくそ
なつてくね
あつて
大納言
おのころけ
あつてくね
あつて

今 難
あつて
おの
おの
う 和泉式部
し

農
あつて
よめ
は
は

の乳
よはく
わが
く

それ

紫式部

兒は

あつ
くれ
あ
き
や

ゆふ
く
き
人
を
え

大貳三店

有智
山
や
き

井好の障子

文て

うきうき

月を

かき

赤坂衛門

屋敷うきうき

うきうき

うき

うきうき

小式部内侍

大江山生野路

遠望系連老

摩訶石美茂是

寺と橋立

伊勢大捕

いふ多岐なるの

都農主様

今九日に

芳村、那

世今逢坂野開

聴作

清少納言

夜守籠魚籠乃

空音登針登毎

人
な

大東大久道雅

よ

今

あ

思ひ

中

乃

は

は

檀中納

相

まの川

あゝ我を多くちれ
るをわかれ

相模

恨とわかれ
ほろけぬ袖
たゞの智

花より
うしろ
も奈

大僧正の

新車馬に
衆をとおも
やま嘆息

周防内侍

たむ 君れ世の
若き 遊とけり。
けり 利なきに
重 自らくまに
社 甲斐なく

はるきやうて

あき世とち、所

契と恋しき人

ふきよけの月

う雅

三條院

尚吹三管此山
農子桑葉を食ふ

竜田の川乃

新くなり

能因法師

良暹法師

中飛——たに宿を

立あぐなりむ

建武

いさぐちなり

秋乃ゆき

大物之修徳

あー農

まらや

秋のふきふ

夕山暮

のふきふ

葉音

て

言の岡あ

此演乃あ

は

祐子内親王良紀伊

か

や

あれも

うそ

あ

濃

如素

えいれ
舞

高砂孔おのくの櫓
あまたにふれや
あゝ次とあら
権中納言はな

源俊賴朝臣

あまのりつ人

あまのりつ人

と

あまのりつ人

あまのりつ人

敬原王後

契王——水子

月、露、雪、霜

冬に

あはれ——此

金、銀、銅、鉄、鉛、錫、

法性寺入道前關太政大臣

和田原漕出而看

者久堅く子雲居

摩迦娑——沖津

新羅旅曲

漱石はやきふた
すけ滝川乃
ふれもきふり
あはきとそ
おあふ

崇徳院

源兼昌

くた寐

漢路

漢

あふれ

うよふ

あふ

ちふ

乃

あふ

雄風と大れり
くもの影るる

きしつれ月乃

新れと書

山

左京大夫顯瑞

待賢門院堀川

なりと所書

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

子規

啼つる鳥城

とくしん

喉

三月の月夜

残照

後泊大寺大住

道因法師

思ひ

うき

わひ

うき

傳も

うき

素

命は

か利

あふ

なり

まの

いれ山乃おろた
きりゝそれ
くなら

皇太極宮大史後成

世
中
る
世

しら
ち
思ひ

藤原清輔朝臣

あ
と
と
と
と

なり
なり
なり

ま
ま
ま

の
の
の

後患法師

斜

費

流

た

うまけ

と

あ

よあけ、まじ

たふみそ

明やうね

園のむ

款けく 展具

やまあのを おまけ

あれ

まふちふなる

わ、あれ

西河法師

寐蓮法師

むろふれ露も

るくひぬ橋の葉

2

霧立ち乃夢

秋の夕ぐれ

皇太后院の書

浪華江に下る玉

り秋のひも悲

くちをくすや

恋わく人よ

式子内親王

玉農

そ

ち

弦

し

君

は

上乃

弘

た

思

た

た

承

事

殷富門院大輔

之勢はきれ小嶋

乃あはれ神たふも

あはれうあはれ

さるはううあ

うら若く

起る利

うも

後京松攝政前太政官

蒼鳴や

祥

君よ此に還小

二條院讃岐

多あくは

うけ

いふ心

ちん

うねの

ふれ人

しる

福倉右大臣

を問ふ

海生此

つね

ふし

小

芳とれ

意

船の

流木

張

く

白

う

三子の夜湯此

秋風

さよふ

きく

さねつ

寒く衣

ふりて

泰新雅經

前大僧正慈光

おほけく

うきよれ民

うきよれ民

すゑ

うきよれ民

うきよれ民

うきよれ民

うきよれ民

うきよれ民

入道前大政大臣

うきよれ民

うきよれ民

うきよれ民

うきよれ民

うきよれ民

権中納言定家

来如人乎

あつゝのうゝの

ゆゑに

焼や

乃毛

屋壇

乃

六九

片

清・信長

沖後

そ

風

友の

家

きん

うよく

まゆ

小川

乃

後鳥羽院

人とも

うさや

あらう

うさや

物う

順徳院

百教のつる

善徳

のつる

おのつる

おのつる

大の百人一首よりたやあゑ
 梓のききもい色紙歌乃
 日使 近衛殿龍山よりり
 松花堂に傳授し給ふに此
 かしき師説をよりて
 をはく許し給ひ給
 延寶乙卯長一疎居末岡

